

# DISCLOSURE 2020.12

2020年度第3四半期(2020年4月1日～12月31日)における経営情報を開示します

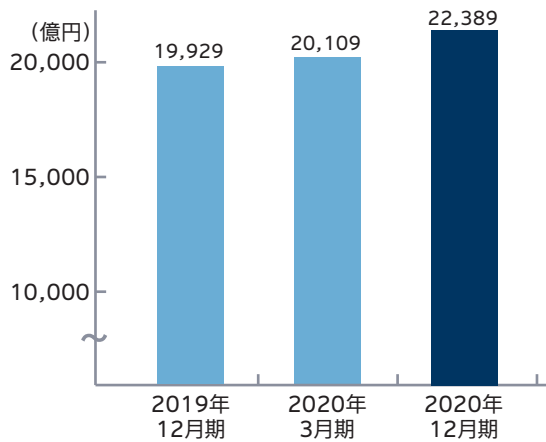
(注)この四半期ディスクロージャーは、当金庫が自主的に開示するものです。計数については、会計監査人による監査を受けていません。数値は原則単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとの合計の数値が一致しない場合があります。なお本資料は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。

西武信用金庫

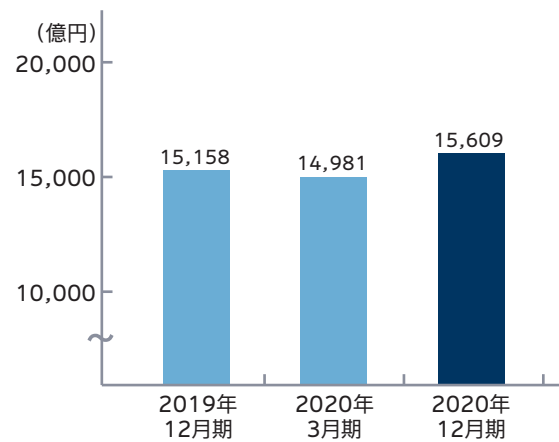
## 預金・貸出金の状況

預金残高は、前年同期比で2,460億円増加し、2兆2,389億円となりました。貸出金残高は、前年同期比で450億円増加し、1兆5,609億円となりました。

### ●預金残高 2兆2,389億円



### ●貸出金残高 1兆5,609億円



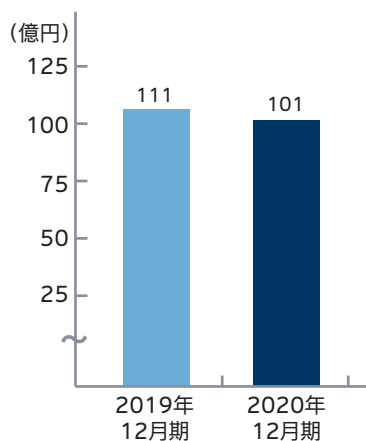
(単位:億円)

	2019年12月期	2020年3月期	2020年12月期	前年同期比
預金残高	19,929	20,109	22,389	2,460
貸出金残高	15,158	14,981	15,609	450
預貸率	76.06%	74.49%	69.71%	△6.35ポイント

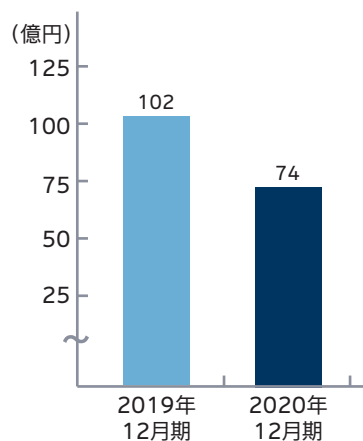
## 損益の状況

コア業務純益は101億円、経常利益は74億円、当期純利益は46億円を計上し、堅調に推移しました。

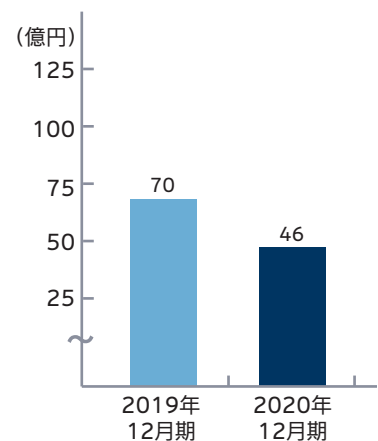
### ●コア業務純益 101億円



### ●経常利益 74億円



### ●当期純利益 46億円



(単位:億円)

	2019年12月期	2020年12月期	前年同期比
コア業務純益	111	101	△9
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	110	101	△8
経常利益	102	74	△28
当期純利益	70	46	△24

コア業務純益とは？

業務純益から一時的な変動要因(一般貸倒引当金繰入額や国債等債券関係損益)を除いたもの。貸出業務などの金融機関の本来の収益力を表します。なお、コア業務純益(投資信託解約損益を除く)は、コア業務純益から投資信託解約損益を除いたもので、金融機関の収益力を厳密に示すものです。

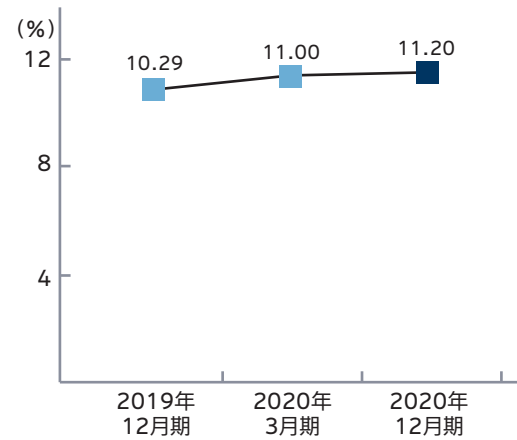
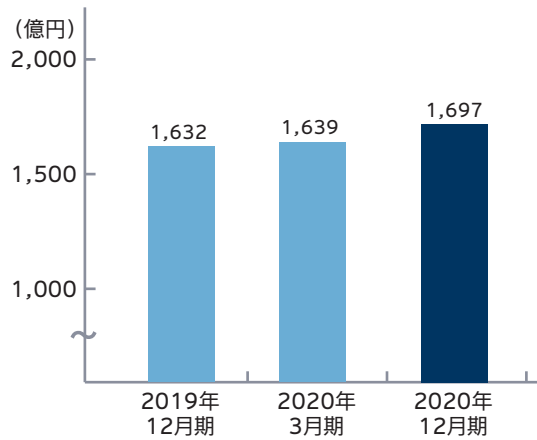
## 自己資本の状況

(国内基準)

自己資本の額は、利益等の積み上げにより前年同期比で64億円増加し1,697億円となりました。自己資本比率は、前年同期比で0.91ポイント上昇し11.20%と金融機関の健全性を示す国内基準4%を大きく上回っています。

## ●自己資本の額 1,697億円

## ●自己資本比率 11.20%



(単位:億円)

	2019年12月期	2020年3月期	2020年12月期	前年同期比
自己資本の額	1,632	1,639	1,697	64
自己資本比率	10.29%	11.00%	11.20%	0.91ポイント

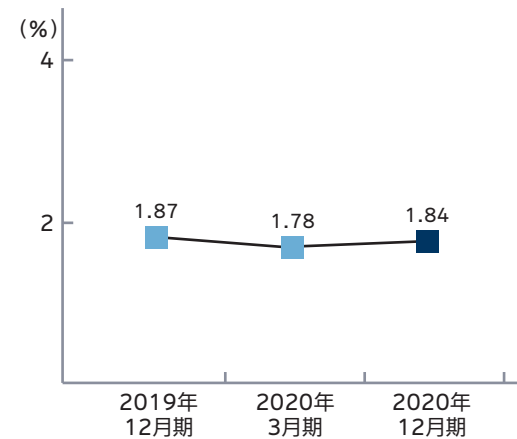
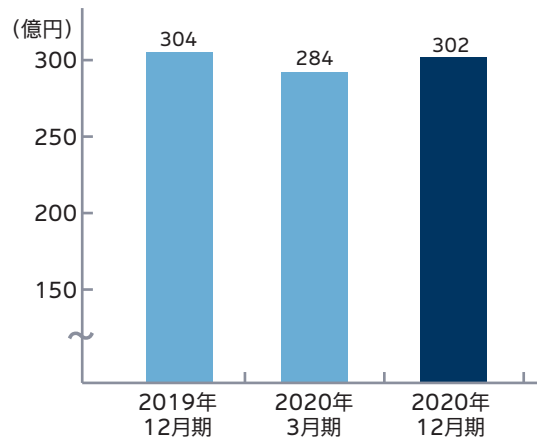
## 不良債権の状況

(金融再生法開示債権)

不良債権残高は302億円、不良債権比率は1.84%と低水準です。

## ●不良債権額 302億円

## ●不良債権比率 1.84%



(単位:億円)

	2019年12月期	2020年3月期	2020年12月期	前年同期比
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	49	36	45	△3
危険債権	247	232	230	△17
要管理債権	7	15	26	19
不良債権合計	304	284	302	△1
不良債権比率	1.87%	1.78%	1.84%	△0.03ポイント

## 有価証券の評価損益

有価証券の評価損益は、前年同期比で7億円増加しました。

(単位:億円)

	2019年12月期		2020年3月期		2020年12月期		前年同期比	
	時価	評価損益	時価	評価損益	時価	評価損益	時価	評価損益
株式	41	8	38	1	42	7	0	△1
債券	221	1	125	1	84	0	△137	△0
その他	531	6	580	1	628	16	96	9
合計	795	17	745	4	754	24	△40	7

(注) その他＝投資信託・優先出資・外国証券・投資事業有限責任組合契約等への出資・買入金銭債権